

## 阪奈サナトリウム

(平成 26 年 6 月 30 日訪問)

平均在院日数 2400 日(平成 26 年 6 月 30 日時点)

### 積極的な取り組みなど

・ 屋上庭園は花壇があり、職員同伴で散歩に出ることができる。

### 前回の訪問(平成 20 年 7 月)から改善されていた点、未改善点など

● 前回訪問時、売店で販売されているシャンプー(市販価格が約 600 円のもの、890 円)等の価格が高かった点については改善されていた。

● 前回訪問時、南 2 階病棟では脱衣所が喫煙場所になっていたが、今回はこの病棟は禁煙になっていたため、解消されていた。

● 前回訪問時、診察室のなかった南 2 階と南 3 階病棟に診察室がつくられていた。東病棟では詰所に入つてすぐの位置に診察場所があり、訪問時にはそこで診察が行われていた。※なお、西病棟では、診察室の扉があるため声は漏れないが、窓があるので、廊下から診察の様子が見えた。

● 前回訪問時、非常時の避難経路を掲示し、廊下に矢印などで分かりやすい表示がなかったが、今回もそのような掲示等はなかった。

● 金銭を自己管理できるのは西病棟のみであること、歩いて詰所まで行くことのできる患者は、薬を受け取るために詰所前やデイルームの配薬場所まで行くこと、東病棟、西病棟の公衆電話が、詰所や処置室近くの廊下にあり、周りに囲い等が設置されていない点は前回訪問時と変わっていなかった。

● 長期在院の患者から「どうすれば退院できるのですか」「ワーカーには何を相談できるのですか」等の声が多く聞かれ、PSW のことが周知されていないことは前回訪問時と変わっていなかった。

● 前回訪問時、隔離室(南 2 階病棟)の壁のつばりや詰所からトイレが見える点は改築により解決していたが、改築後も隣の隔離室に入室している患者の声が聞こえる点は改善されていなかった。

### 病院全体

法人内に救急指定病院があるため身体合併症患者の受入れがしやすいとのことだった。敷地内に老人保健施設や旧援護寮、隣にグループ内の社会福祉法人の特別養護老人ホームがあった。

### 人権委員会・意見箱

人権委員会の委員長は医師で開催頻度は月 1 回。行動制限最小化委員会と同時開催。外部委員はいない。意見箱は各病棟と外来に設置され、回収は事務次長の PSW が行う。意見箱のそばには「皆さんの声を聞かせてください」という掲示があった。用紙が

設置されていない病棟もあり、職員に聞くと「置いておくとなくなる(ので置いていない)」との説明だった。

### 金銭管理

病院に預ける場合の管理料は 100 円/日(生活保護の場合 50 円/日)。病室内には鍵のかかる収納はなかった。西病棟には患者全人数分の鍵付ロッカーがあった。それ以外の病棟では、薬を自己管理するための小さなロッカーが詰所近くに 20 個弱ずつあった。各鍵付ロッカー使用料は月 800 円。

売店は外部の業者が運営し、営業は毎日ではない。業者がレシートを病院に提出し、病院はその額を病院が管理している患者の預かり金から差引く。

### 喫煙

南 2 階と南 3 階病棟と東病棟では喫煙室はなくなっていた。西病棟の喫煙室では床に燃えないマットが敷かれていた。焼けた穴がかなりあり長期間使用しているようだった。詰所のカウンターに、患者の名前が書かれた紙箱があり、患者ごとに 3 本、5 本と煙草が入っていた。

### 面会

各病棟に面会室があった。面会時間 10:00~16:00。

### 入浴・洗濯

入浴は原則週 3 回で介助が必要な患者は週 1 回。洗濯は西病棟のみ洗濯機(2,550 円/月)が使える。他の病棟は家族が持帰るか病院が洗濯をする。洗濯代は老人 9,300 円/月、一般・生活保護 4,320 円/月。

### 病棟の様子

各病棟の詰所はアクリルの窓や格子状に金網の入ったガラス窓で囲われていた。各病棟のトイレは掃除の後だったので、清潔に保たれているところがほとんどだったが、尿臭が気になる所が多かった。

### 病室

4 人部屋が中心で個室や 5 人部屋もあった。ベッド横には床頭台があり、ベッドの下や横に衣装ケース 1~3 箱が置かれていた。壁に棚のある部屋もあった。ベッド周りのカーテンは開けている患者も閉めている患者もいた。「寝るときも開けている」と言う患者もいた。理由を聞くと、「ずっとそうしてきた、閉めたことがない」とのことだった。

### 電話

南病棟ではデイルームの端の詰所から見えにくい位置に、東病棟、西病棟は詰所や処置室近くの廊下に公衆電話が設置されていた。テレホンカードは詰所に預けているという患者が多かった。携帯電話は持ち込み禁止となっていた。

### 南 2 階病棟 (閉鎖 男女 精神一般 15:1 48 床)

南 2 階病棟と南 3 階病棟との違いは、「2 階では月 2 回の救急の輪番時に急性期の患者が入ること

が多く、3階は他害行為のない患者が入る」との説明だった。患者は20代前半～80代後半、平均年齢は60歳を超える。最も入院期間が長い患者は7年。退院支援については、PSWが関わっている患者が常に3～4名はいるそうだ。屋上は自由に行き来することはできず、患者3～6名に職員が付添って行く。

広いデイルームがなかったため、食事について職員に聞くと、朝食はベッドでとる患者が多いため分けないが、昼食は11:30開始と11:50開始、夕食は18:00開始と18:15開始の2回に分けて約20名ずつで食事をするとのことだった。

#### 隔離室・個室

隔離室は4室あり、全て使用中だった。訪問日は開放観察が2名とのことだったが、外に出ている患者はいなかった。隔離室にはモニターカメラとスピーカーホンがあった。職員によると、「スピーカーホンは普段は電源を切っている。患者の声や壁を叩く音が詰所まで聞こえるので問題ない」とのことだった。トイレの水洗はセンサー式、自動で流れる。前室に入ると隔離室2室分の扉があった。それぞれの扉の窓には室内が見えないようにロールスクリーンがかけられていた。各扉から隔離室に入った正面には透明のアクリルの壁があり、その向こうは詰所だった。

外から施錠できる個室3室のうち2室は外から施錠して使用されていた。個室は鉄の扉で中の様子はわからなかったが「看護師を呼びたい時は患者が鉄の扉をノックすれば詰所に聞こえる」という説明。

#### 患者の声

「他の病院が空いてなくてここに来たが、決まりが多くて外に出られず『刑務所』みたいで余計に調子が悪くなりそう」「お茶は詰所の中にあり、詰所の扉は鍵が掛かっている、お茶を飲む患者が何人も続いたとき、自分が後の方に行くと職員の機嫌が悪い」「部屋にナースコールがなく、職員を呼びたくても我慢して待つか、自分で行くかしかない」「旧館の男性用トイレは個室の便器が壊れている。新館のトイレは個室が2つあるが、1つは車椅子の患者のために空けておかないといけないので、使えるトイレが少なくて困る(※職員に確認すると、旧館の男性用の個室は配管がすぐに詰まるので使用できなくなっているが、他に身障者用トイレが3ヶ所あり、そこが使えるためトイレが不足していない。また、誰でも身障者用トイレを使ってよいことは患者にも伝えているとのことだった)」「退院は主治医と話をしてからだが、退院はそんなに先にならないだろう。入院してから外へはまだ1回も出ていない。屋上への外出は人数が集まった時しか行けない、ケンカがしょっちゅうあって見ている方がハラハラする。止めると放っておくように言われる」「(詰所扉に『髭剃り・CDウォークマン・ラジオ・レク用品貸出 8:00～21:00、耳かき・爪切り・裁縫道具貸出 9:30～16:00』と掲示があることにつ

いて)自分のものを預けた場合には書かれている時間に使える」「(ラジオ体操の音楽が流れてきたが)あまりしている人は見ない」「入院して4ヶ月。たぶん任意入院。外出は水曜日に売店で買物するくらい。(買物の代金は病院に預けているお金から差引かれるので、)自分は現金には触らない。買ったものは詰所に預けている。屋上には行ったことはない」「大阪市内の施設に5年くらい、ここの援護寮に1年4ヶ月いた。退院後はワンルームを借りて生活保護を受けて1人で暮らしたいけど、主治医とは話せていない。退院時期の話にならない」

#### 南3階病棟 (閉鎖 男女 精神一般 15:1 45床)

開放処遇制限が8名で、外出は9:00～17:00、ノートに記載して外出することになっていた。外出ノートを見せてもらうと、外出しているのは毎日ほぼ同じ患者で、その患者の名前の間に他の数名の名前があるという状況だった。

お茶と白湯のやかんが詰所に入ってすぐの所に置かれ、自由に飲めるようになっていた。

デイルームは詰所の横の空間にあった。テレビと漫画や小説を入れた本棚が設置され、月1回のレクで作ったという七夕飾りがしてあった。デイルーム以外に「多目的室兼談話室」という部屋があり、6人掛けのテーブルが4台、それぞれの席に患者の名前が貼られていた。男性が1名テレビを見ていた。

トイレは入口にカーテンがあり、入るとセンサーで明かりが点灯した。便器は旧館が和式で新館は洋式だったが清潔な印象だった。いずれのトイレも手洗い用の液体せっけんはボトルの中身が空で、ペーパータオルも全て入っていなかった。職員によると「身障者用トイレがいっぱいで、どうしても間に合わないときは、男性の身障者用を女性患者が使う場合もある」とのこと。新館の5人部屋には洗面台が1つあった。病棟で力を入れて取り組んでおられることをお尋ねすると「特にない。高齢の方が多いので、リハビリや機能低下防止くらい」とのこと。

#### 患者の声

「入院して3ヶ月。ここには何回か入院している。外出は看護師と一緒に庭に出たことがある。病棟からは外があまり見えない。おやつ時間は14:00だが14:30になるなど遅れることがあるので統一してほしい。レクでカラオケをしたことがある、自分は下手なので歌わない」「入院して20年、退院の話はない。昼も寝る、おやつはビスケットをまとめて買って詰所に預けている」「OTにはあまり参加しない。仕事が見たい」「入院して半年くらい。入浴は週1回、少ない。お金もテレホンカードも病院に預けている。お正月前は家族が忙しいから入院したが次の行先が決まればそこに移ることになっている」「週1回、診察室で主治医の診察がある。植木が好きだから外出する

と気分転換になっていい」

#### 東病棟（閉鎖 男女 精神療養 60床）

約3分の1の患者は車椅子で、ポータブルトイレ使用者が約3分の1とのこと。病棟で力を入れていることは「患者の安全面についての改善をしている。以前は折りたたみのパイプ椅子だったが、最近、安定感のある椅子に入れ替えた」とのこと。

病室以外で座れるところは詰所前かデイルームのみで、廊下等にはなかった。

掲示板に「新春掲示」と書かれた紙が貼られ、その下に塗絵や書道が掲示されていた。ひなまつりの塗り絵もあったので新春に掲示されたものだけではなさそうだった。

カーテンを開けたままポータブルトイレを使っている患者がいた。カーテンはカーテン留めで留められていた。デイルームと面会室、病室のうちの教室、身障者用トイレのあるゾーンは平成25年に改築した。

#### 患者の声

「入浴は早くするよう職員にせかされる」「半年ほど入院している。前にいた病棟では同じ部屋の患者がポータブルトイレを使っていた。使用後は職員を呼ぶとすぐに片付けに来てくれる時もあるが、定期的に周って来たときにやっと片付けてくれることもある。その場合はやはり臭いはする」「OT以外では月に1回くらい、病棟で季節行事やゲームがある」「OTではミシンを使って服をつくっている」「他には出る機会はない。売店の商品は職員が買ってきてくれる。いつも同じお菓子を買ってきてくれる」

#### 西病棟（開放 男女 精神療養 60床）

最近退院者がいたため、1床空いているとのことだった。訪問時は職員同伴で8名の患者が散歩、4名がOTのため病棟にはいなかった。看護職員は3チームに分かれて、1チームにつき10数名の患者を受け持ち、数ヶ月ごとにかわる仕組みだった。

42名が金銭の自己管理をされて、42名が鍵付ロッカーを使用していた。

男性用トイレは個室4室、小用4つがあった。患者から「トイレットペーパーがないときがあるから困る。売店で自分で50円のロールを買うようにして持っていく」などの声があった。病院側によると「一定のロール数を詰所に渡しているが、それを越えた数が必要な場合も遠慮なく必要な分を申し出るように言っている」とのこと。

デイルームには約60席のテーブルと椅子があった。テーブルにはその席に座る患者の名前が貼られていた。TVがついていた。デイルームが2つあった。談話している患者が多かった。

詰所前廊下付近は人通りは頻繁。OT(作業療法)

での月間スケジュールや人権擁護に関するポスター掲示もあるが、貴重品ロッカーの側面に貼られているためやや目に付きにくい。

#### 患者の声

看護職員を目を気にしながら「発言に困る」ということで立ち去る患者が複数いた。「衣装ケースはベッドの下に3個まで置けるが、それを超えると廊下にある大きいロッカーを借りる」「毎月の小遣い4,000円と家計簿を一緒にロッカーに入れている」「寝るときにカーテンは閉めたり開けたままにしたり、その夜の気分次第で」「月1回、生駒市の耳鼻科に行く。歯槽膿漏が痛い時、夜勤の職員が話を聞いてくれて不安が消えた」「患者が売店の仕事をしていた時は、のみこみの悪い人がいて困った。今は職員に変わって安心した」「診察時間が短く、いつも同じ質問しかしない。不調を訴える間もなく片付けられる」「たばこの本数を決められるのがとてもつらい」「時々PSWに電話して相談にのってもらっている」「週1回の売店で買物を楽しみにしている。売店利用は水曜日のみ」「30年以上入院している。昔はここの人からの暴力行為があったが少しずつマシになった」「以前、貴重品ロッカーは、10名で1つを利用して10名が揃ったときしか鍵を開けられなかった」「食事代は以前は1食800円で3食で1日2,400円とられていた」「詰所前の貴重品ロッカーは施錠できるが、人通りの多い位置で詰所前ということもあり利用しにくい」「他の患者から言葉のいじめを受けた。患者間で何とか解決するしかない」「福祉の手続きは障害年金だけ。障害者手帳は持っていない」

#### デイケア（旧援護寮入居者の声）

入院していたときのこと:「入院中は寝る前の薬を詰所まで取りに行かないといけなかった」「病院のケースワーカーには電話で相談できる」「50円のトイレットペーパーがすぐなくなって困る。いちごっこ」「入院中の診察は2~3分。ゆっくりと相談はできなかった」

旧援護寮について:「小遣いは週1回、請求書を書けば出金できる」

#### 検討していただきたい事項

#### 部屋の掃除当番について(西病棟)

西病棟で患者から「朝6時過ぎに、職員が掃除機を病室の前まで持ってきてくれる。部屋の中は患者4名で順番に掃除機をかけることになっていた。つい最近、『患者は(毎日の部屋掃除を)したらあかんことになる』という話を聞いたが、これまでしてきたのできれいにしている」「雑巾はこの部屋を拭く時に使うために置いている。今日は床頭台を拭いた。6:00に当直の職員が掃除機を部屋の入口に持ってきた。これがその当番表」との声があった。患者が教えてく

れた「当番表」とは、病室入口扉の内側に貼られた大きなカレンダーで、6月中旬までの日付には毎日、その部屋の患者のうち1名の名前が書かれていた。(病院: 患者に誤解のないように説明します。)

#### 隔離室について (南2階病棟)

隔離室に入って正面にあるアクリルの壁の膝くらいの高さのところに縦約15cmの換気口のようなものがあった。この換気口のようなものがあるため、隣の隔離室の患者の声や音が聞こえる構造だった。急性症状の最もしんどい時期を隔離室の中で過ごす患者にとって、隣の部屋の患者の声や物音が聞こえるというのはとてもしんどいことではないだろうか。(病院: 検討します。)

#### 外出の機会

各病棟の患者の声によると外出の機会が少ないようだった。(病院: 精神保健福祉法に則り外出の機会を保障しています。)

#### 意見箱への投書に対する回答

意見箱への投書に対する病院からの回答の掲示等はしていないとのことだった。(病院: 必要に応じて行いますが、個別に対応しています。(内容的に答えようのない投書が多い))

#### 公衆電話について

南病棟ではデイルームの端の詰所から見えない位置に設置されていたが、常に何人かが座っているソファの横にあり、ゆっくり話ができる場所ではなかった。東病棟、西病棟の公衆電話は詰所や処置室近くの廊下であり、周りに囲い等はなかった。(病院: 建物の構造上の問題があり難しいが検討します)

#### 金銭管理

金銭を自己管理できるのは西病棟のみであることは前回訪問時と変わっていなかった。西病棟には患者全人数分の鍵付ロッカーがあった。それ以外の病棟では薬を自己管理するための小さなロッカーが詰所近くに20個弱ずつあったが、ほとんど使われていないとのことだった。南2階と南3階病棟では複数の患者から「お金のことはよく分からない、管理料は1ヶ月50円だったか…」というような声があった。ぜひ収支明細を発行し、金銭の自己管理を増やす方向で検討していただきたい。(病院: 収支明細は希望者全てに発行しています。)

#### 診察場所について (東病棟)

東病棟には診察室がなく、詰所で診察が行われていた。詰所に入ってすぐの位置に診察場所があり、訪問時にはそこで診察が行われていた。診察場所はカーテンで囲うこともできるが、訪問時には閉められておらず、詰所の扉も開いていたため、診察の様子が詰所の外からも見えた。詰所の外側には診察を待つ患者が5~8名並んで座っていた。(病院: 特に問題はないと考えます。)

#### 避難経路の掲示

前回訪問時の病院との意見交換では、非常時の避難経路を掲示し、廊下に矢印等でわかりやすく表示する等のことを検討するとのことだったが、今回もそのような掲示等はなかった。(病院: 検討します。)

#### 退院に希望の持てる情報提供や支援を

PSWは法人内に7名いる。病棟担当は2名でそのうち1名は事務次長だった。その他のPSWは旧援護寮、相談支援センター等に配置されている。法人内の老人保健施設や旧援護寮を活用しての退院支援を行っているとのことだった。各病棟にはPSWについて、2名の病棟担当の名前が書かれた案内が掲示されていた。ただ、東病棟では、案内が、格子状に金網が入っている詰所窓に、詰所内から外に向かって貼られて掲示内容はかなり読みにくかった。

患者からはPSWについて「知らない」、退院について「誰に相談したらよいか判らない」との声が各病棟で複数聞かれた。(病院: PSWは増員の予定をしており、患者との積極的な関わりをすすめていきます。)

#### 薬の渡し方について

歩いて詰所まで行くことのできる患者は、薬を受け取るために詰所前やデイルームの配薬場所まで行くことになっていた。(病院: 検討します。)

#### 外の景色が見えないことによる閉塞感 (南2階と南3階病棟、東病棟)

建物の外に面する窓の全面がすりガラスであったり、窓の下半分に半透明のフィルムが貼られていたため、外の景色を見ることができず閉塞感があった。(病院: 外から見えないようプライバシーに配慮しているため、すりガラスにしています。)

#### 精神保健福祉資料より(平成26.6.30時点)

196名の入院者のうち統合失調症群が138名(70%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が34名(17%)、精神作用物質による精神及び行動の障害が11名(6%)。入院形態は任意入院144名(73%)、医療保護入院52名(27%)。在院期間は1年未満が62名(32%)、1年以上5年未満の患者が70名(36%)、5年以上10年未満の患者が28名(14%)、10年以上20年未満が18名(9%)、20年以上18名(9%)。